

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790300101		
法人名	社会福祉法人 松寿会		
事業所名	グループホーム みかんの花		
所在地	香川県坂出市大屋富町3100番地30		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町受理日	初受審

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JiryousoCd=3790300101-00&PrefCd=37&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成24年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームみかんの花の南西面の窓からは瀬戸内海、北東面の窓からは五色台を一望できる自然豊かな場所に建てられています。天気の良い日には敷地内を散歩したり、畑仕事をしたりと自然に触れながら、暮らしています。利用者と一緒に食事やおやつを作ったり、月1回は外食に行くなど、今まで住んでいた住居の延長として、家庭的な雰囲気の中で生活していただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

当事業所は、平成24年2月25日にオープンし、鉄骨造りの平屋建てで、窓からは瀬戸大橋や五色台が一望でき、風光明媚な素晴らしいロケーションにある。
 利用者は、今まで住んでいた住居の延長として、地域の風景に囲まれて、家庭的な雰囲気ですぐに暮らすことができる。また、天候の良い日には広い敷地を散歩したり、畑仕事に取り組んだりするなど、自然に触れながらゆったりと暮らしている。また、職員は、利用者と一緒に食事の準備やおやつを作り、週に1回は外食に行くなど、常に利用者中心に考え、思いや願いを叶えるために毎日の暮らしに工夫がうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

グループホームみかんの花(五色)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義と法人理念を踏まえた事業所の理念を作り、その理念を玄関ホールに掲示することで、常に理念を意識した支援を、職員全員が実践できるようにしている。	職員全員で作成した理念を玄関ホールに掲示し、常に理念を意識した支援が実践できるよう工夫している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敷地内に植えたみかんの木を育てるために、地域の方と共同で作業を行っている。また、地域の方が主で行っている銭太鼓の団体に、訪問行事をお願いしている。	敷地内にはみかんの木が植えられ、地域のボランティアとの共同作業により、地域のみかん栽培が利用者に継承されている。また、地域の「銭太鼓」の団体に、定期的に訪問行事をお願いしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人をあげての夏祭りなど、地域との交流行事にグループホーム利用者も積極的に参加することで、認知症の方への理解や支援方法を伝えられるようにしている。運営推進会議においても、地域の方に認知症に関する情報を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、市の担当者の方や地域の代表の方にサービスの状況や取り組み等を報告し、そこで得た意見をサービスの向上に活かしている。	運営推進会議には、地元の民生児童委員、社会福祉協議会、老人クラブ、市介護課、事業所代表等が参加し、事業所の実績報告や意見交換を行い、会議での意見をサービス向上に活かすように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の定期開催を可能にするために、日程を事前に決めていることで市の担当職員の方も必ず参加していただき、報告や課題解決に向けた意見をいただいている。疑問点等があれば、その都度連絡し、相談を行っている。	運営推進会議を定期的に行うため、日程を事前に決定し、市の担当職員が確実に参加できるようにしている。会議において事業報告や課題解決に対する意見をいただいている。また、疑問点等があれば、その都度連絡し、相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に対して勉強会を通じ、身体拘束に関する知識を身につけさせた上で、身体拘束をしない介護を行っていくように指導している。	全職員は、研修会や学習会を通して、身体拘束に関する知識を身につけたうえで、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。	

グループホームみかんの花(五色)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待についての研修に参加し、高齢者虐待についての知識を身につけている。また、身体の状態確認をこまめに行うことで、虐待の見落としの防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用している利用者があり、成年後見制度への変更手続きをしており、実際のケースに触れながら制度への理解を高めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約また改定等の際は、十分に時間をかけるようにし、説明後に理解していただけたかどうかを必ず確認し、誤解・行き違いのないようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が、外部者に意見や要望を出しやすいように介護相談員の受け入れをしており、出た意見や要望を運営に反映させている。	家族の面会や話し合いにより、要望や意見を聞き、運営に反映させるための工夫が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の定期開催により、職員の意見や考えを引き出せるようにしている。出てきた意見を議論することで、ケアの質の向上が図れるように努めている。	定期的に行っている職員会議では、職員の意見や考えを引き出せるようにして、出てきた意見について議論し、ケアの質の向上が図れるように努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内でキャリアアップ制度がすでに構築・運用されており、目標成果シートによる目標成果評価と、業績シートによる業績評価を合わせ、給与・賞与に反映させる仕組みがあり、職員の向上心が持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には、事前に受講したい研修の希望を聴取しており、希望に沿った外部研修に参加できるようにしている。また、法人内で毎月開催される研修を職員に周知し、参加を促進している。		

グループホームみかんの花(五色)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に積極的に参加させることで、同業者との交流を図り、情報交換が図れるようにしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の調査の際に、ご本人様が抱えている困りごとや不安・要望等をしっかりと聴取するようにしており、毎日安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の調査の際に、ご家族様が抱えている困りごとや不安・要望等をしっかりと聴取するようにしており、毎日安心して生活できるように努めている。面会にもできるだけ多く来ていただくことで、信頼関係が築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、ご本人とご家族が必要としている支援の見極めができるように、事前の情報収集に力を入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に料理を作ったり、畑仕事をしている。畑仕事では、利用者から職員の知らないことを教わっている状況である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員からご家族への一方的な情報提供ではなく、ご利用者の落ち着いた生活のために、ご家族からのアドバイスも積極的に受けている。遠方におられるご家族への情報提供にも努めて、関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望すれば、馴染みの知人に電話をかけ、可能であれば訪問してもらうことで、馴染みの方と関係が途切れないように援助している。	昔馴染みの知人との関係が途切れることのないように、希望があれば馴染みの知人に連絡を取って訪問してもらうなど、馴染みの人との関係継続の支援に努めている。	

グループホームみかんの花(五色)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、利用者同士の関係で気の合う・合わないを見極め、良好な人間関係の中で、日々楽しく過ごせるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要支援1となり退居された方がいたが、退居後の入居可能な所の情報を提示し、次の入居先で安心して生活できるように、退居前にしっかりと相談援助を行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を確認し、思いを汲み取るようにしている。本人の意向が確認できない場合は、家族等から情報を収集するようにしている。	家族や利用者から意向を確認し、本人の意向が確認できない場合は家族等から情報収集を行うように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から多くの情報を集め、職員全員に周知し、情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの現状の把握に努め、関わる職員全員が統一したケアを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族から聴取したアセスメントを基にケアプランを作成している。月1回のモニタリングを行い、ケアプランの見直しを含め、本人に適したものに修正するようにしている。	利用者・家族との話し合いや面会の際に要望や意見を聞き、ケアプランに反映させている。モニタリングは月に1回行い、利用者に適したプランに修正している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	どの職員が見ても状況や状態の変化が分かるような記録に努め、情報を共有するようしており、介護計画の作成に活かしている。		

グループホームみかんの花(五色)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に本人や家族の希望に耳を傾けることで、状況・状態を把握し、柔軟な対応ができるようにしている。必要時には関係サービス等への相談も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア団体等からの訪問を積極的に受け入れている。また、地域の文化祭に利用者の絵を出品することで、地域活動にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認し、入居後の受診希望先も確認し、希望に応じて対応している。かかりつけ医や協力医療機関と密に連携を図っている。	入居時にかかりつけ医を確認するとともに、入居後の受診希望先を確認し、希望により対応している。かかりつけ医や協力医療機関との緊密な連携を大切にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所における看護職員の配置はないが、健康状態に不安がある時には、法人敷地内の他事業所の看護職員に相談できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、医療機関に利用者の情報提供を行っている。入院中は医療機関との連絡を密に取り、退院後、元の生活に戻りやすいように状態の把握に努めている。退院時には、医療機関からの状態説明をしっかりと聴くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の希望はこまめに聴取しているが、重度化・終末期の対応については、事業所でできることをその都度伝えていくようにしている。必要な情報の提供も、随時行うようにしている。	入居時に「看取りに関する指針」を家族に説明し、重度化・終末期の対応については、事業所でできることをその都度伝えていくようにしている。必要な情報提供も随時行うように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で行われる急変時の対応に関する研修に、職員を積極的に参加させている。また、事業所内にAEDも設置しており、使用方法の勉強会も開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練を開催している。防災についても、法人内の研修に職員を参加させている。新たに配属された職員にも防災について説明をしている。	消防避難訓練を年2回開催し、また、防災についての法人内研修に職員を参加させている。新たに配属された職員にも、日頃から災害に対する意識を高く持ってもらうように努めている。	当事業所は海が近く、海拔も低いので、火災のみならず、津波や高潮等を想定した避難訓練の実施が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した声かけや対応に心がけている。個人情報の取り扱いについても、プライバシーに配慮するように全職員に周知している。	個々のプライバシーを損ねないように、さりげない声かけ等、対応に全職員が配慮するよう、学習会や研修会で周知徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いが表現しやすいような雰囲気作りに努め、また、利用者の選択しやすいように、選択肢をいくつか用意する等の配慮に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて、その人らしく生活できるように、その都度声かけ・確認をし、表情を見ながら、その方の希望に合っているか配慮した支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりに合った服装・身だしなみ・おしゃれができるように、その都度確認するようにし、ご本人の希望に沿った装いができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けを職員と一緒にしている。おやつについても週に何度かは手作りにしている。利用者の希望を聴いたうえで、1ヶ月に1回は外食に行くことで、食べることへの楽しみを持てるようにしている。	食事の準備や後始末を利用者と職員が一緒にしている。おやつを皆で楽しく手作りしたり、希望により1か月に1回は外食に行くことで、食べる楽しみを感じてもらえるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みや摂取状況を把握し、一日を通じて、必要な栄養や水分が確実に摂取できるように支援している。		

グループホームみかんの花(五色)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず行っている。必要に応じて本人・家族の了解を得たうえで、訪問歯科により、口腔内の状態確認と清潔の保持が図れるように支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握することで、トイレにおいて自立した排泄が行えるように、随時声かけ・誘導を行うように努めている。	個々の排泄パターンを把握することで、さりげない声かけで誘導を行い、自立した排泄が行えるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便時の状態・回数・量のチェック、食事・水分の摂取状況等、把握できる情報の共有に努めている。また、便秘予防のために、毎日の散歩や体操を行うようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に合わせて、入浴の時間帯を調整している。希望に合わせて安全に入浴できる環境作りに努めている。	個々の希望に合わせて、入浴時間を調整し、安全に入浴できる環境作りへの努力がうかがえる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	屋内の清潔・環境整備・温度管理により、休息・安眠に繋げられるようにしている。夜間眠れない利用者については、リビングでお茶を飲んでいただき、安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのファイルを作成し、服用する薬の目的や、副作用・用法・用量等を全職員が理解できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしが、楽しみや張り合いのあるものになるよう、今まで続けてきた趣味や楽しみごとが継続できるよう支援している。		

グループホームみかんの花(五色)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に行く機会を設け、散歩により屋外に出る機会を持っている。また、月に一度は外食・外出の機会を持ち、地域との関わりを持てるように努めており、利用者も楽しみにしている。	天気のいい日には、広い敷地で安全な散歩コースがあり、散歩ができる。また、月に1度は、外食・外出の機会を設定して地域との関わりが持てるよう計画し、利用者が楽しめるように努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理ができる方は、自分で管理されている。必要に応じて事業所で預かっているが、外出時等の必要時に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要時に電話をいつでもかけられるように、各ユニットに電話機を用意しており、家族や友人との連絡が取れるような環境を作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間での快適な環境作りとして、照明・室温のこまめな調整を行っている。また、テレビの音量には配慮している。リビングには季節の花を生けることで、季節感を取り入れている。	共有空間での快適な環境作りとして、照明・室温、テレビの音量等の調整に細かく配慮し、また、利用者の居室には季節の花を生け、季節感を取り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファの配置を工夫することで、利用者の希望に合った空間が作れるように努めている。共有スペースを各自の思うように利用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人が落ち着いた時間が過ごせるように、今まで使用してきた家具や写真などを持ち込んでいただき、居心地良く過ごしていただいている。	居室には、今まで家庭で使用した家具や写真を持ち込み、落ち着いて安心して暮らせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が分かりやすいように居室入り口に記名をする等、安心・自立した生活を送っていただけるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義と法人理念を踏まえた事業所の理念を作り、その理念を玄関ホールに掲示することで、常に理念を意識した支援を、職員全員が実践できるようにしている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敷地内に植えたみかんの木を育てるために、地域の方と共同で作業を行っている。また、地域の方が主で行っている銭太鼓の団体に、訪問行事をお願いしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人をあげての夏祭りなど、地域との交流行事にグループホーム利用者も積極的に参加することで、認知症の方への理解や支援方法を伝えられるようにしている。運営推進会議においても、地域の方に認知症に関する情報を提供している。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、市の担当者の方や地域の代表の方にサービスの状況や取り組み等を報告し、そこで得た意見をサービスの向上に活かしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の定期開催を可能にするために、日程を事前に決めていることで市の担当職員の方も必ず参加していただき、報告や課題解決に向けた意見をいただいている。疑問点等があれば、その都度連絡し、相談を行っている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に対して勉強会を通じ、身体拘束に関する知識を身につけさせた上で、身体拘束をしない介護を行っていくように指導している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待についての研修に参加し、高齢者虐待についての知識を身につけている。また、身体の状態確認をこまめに行うことで、虐待の見落としの防止に努めている。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用している利用者があり、成年後見制度への変更手続きをしており、実際のケースに触れながら制度への理解を高めている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約また改定等の際は、十分に時間をかけるようにし、説明後に理解していただけたかどうかを必ず確認し、誤解・行き違いのないようにしている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が、外部者に意見や要望を出しやすいように介護相談員の受け入れをしており、出た意見や要望を運営に反映させている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の定期開催により、職員の意見や考えを引き出せるようにしている。出てきた意見を議論することで、ケアの質の向上が図れるように努めている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内でキャリアアップ制度がすでに構築・運用されており、目標成果シートによる目標成果評価と、業績シートによる業績評価を合わせ、給与・賞与に反映させる仕組みがあり、職員の向上心が持てるようにしている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には、事前に受講したい研修の希望を聴取しており、希望に沿った外部研修に参加できるようにしている。また、法人内で毎月開催される研修を職員に周知し、参加を促進している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に積極的に参加させることで、同業者との交流を図り、情報交換が図れるようにしている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の調査の際に、ご本人様が抱えている困りごとや不安・要望等をしっかりと聴取するようにしており、毎日安心して生活できるように努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の調査の際に、ご家族様が抱えている困りごとや不安・要望等をしっかりと聴取するようにしており、毎日安心して生活できるように努めている。面会にもできるだけ多く来ていただくことで、信頼関係が築けるようにしている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、ご本人とご家族が必要としている支援の見極めができるように、事前の情報収集に力を入れている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に料理を作ったり、畑仕事をしている。畑仕事では、利用者から職員の知らないことを教わっている状況である。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員からご家族への一方的な情報提供ではなく、ご利用者の落ち着いた生活のために、ご家族からのアドバイスも積極的に受けている。遠方におられるご家族への情報提供にも努めて、関係を築いている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望すれば、馴染みの知人に電話をかけ、可能であれば訪問してもらうことで、馴染みの方と関係が途切れないように援助している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、利用者同士の関係で気の合う・合わないを見極め、良好な人間関係の中で、日々楽しく過ごせるよう支援している。
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要支援1となり退居された方がいたが、退居後の入居可能な所の情報を提示し、次の入居先で安心して生活できるように、退居前にしっかりと相談援助を行った。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を確認し、思いを汲み取るようにしている。本人の意向が確認できない場合は、家族等から情報を収集するようにしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から多くの情報を集め、職員全員に周知し、情報の共有に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの現状の把握に努め、関わる職員全員が統一したケアを行っている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族から聴取したアセスメントを基にケアプランを作成している。月1回のモニタリングを行い、ケアプランの見直しを含め、本人に適したものに修正するようにしている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	どの職員が見ても状況や状態の変化が分かるような記録に努め、情報を共有するようにしており、介護計画の作成に活かしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に本人や家族の希望に耳を傾けることで、状況・状態を把握し、柔軟な対応ができるようにしている。必要時には関係サービス等への相談も行っている。
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア団体等からの訪問を積極的に受け入れている。また、地域の文化祭に利用者の絵を出品することで、地域活動にも参加している。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認し、入居後の受診希望先も確認し、希望に応じて対応している。かかりつけ医や協力医療機関と密に連携を図っている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所における看護職員の配置はないが、健康状態に不安がある時には、法人敷地内の他事業所の看護職員に相談できるようにしている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、医療機関に利用者の情報提供を行っている。入院中は医療機関との連絡を密に取り、退院後、元の生活に戻りやすいように状態の把握に努めている。退院時には、医療機関からの状態説明をしっかりと聴くようにしている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の希望はこまめに聴取しているが、重度化・終末期の対応については、事業所でできることをその都度伝えていくようにしている。必要な情報の提供も、随時行うようにしている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で行われる急変時の対応に関する研修に、職員を積極的に参加させている。また、事業所内にAEDも設置しており、使用方法の勉強会も開催している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練を開催している。防災についても、法人内の研修に職員を参加させている。新たに配属された職員にも防災について説明をしている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した声かけや対応に心がけている。個人情報の取り扱いについても、プライバシーに配慮するように全職員に周知している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いが表現しやすいような雰囲気作りに努め、また、利用者の選択しやすいように、選択肢をいくつか用意する等の配慮に努めている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて、その人らしく生活できるように、その都度声かけ・確認をし、表情を見ながら、その方の希望に合っているか配慮した支援をしている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりに合った服装・身だしなみ・おしゃれができるように、その都度確認するようにし、ご本人の希望に沿った装いができるように支援している。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けを職員と一緒にしている。おやつについても週に何度かは手作りにしている。利用者の希望を聞いたうえで、1ヶ月に1回は外食に行くことで、食べることへの楽しみを持てるようにしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みや摂取状況を把握し、一日を通じて、必要な栄養や水分が確実に摂取できるように支援している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず行っている。必要に応じて本人・家族の了解を得たうえで、訪問歯科により、口腔内の状態確認と清潔の保持が図れるように支援している。
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握することで、トイレにおいて自立した排泄が行えるように、随時声かけ・誘導を行うように努めている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便時の状態・回数・量のチェック、食事・水分の摂取状況等、把握できる情報の共有に努めている。また、便秘予防のために、毎日の散歩や体操を行うようにしている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に合わせて、入浴の時間帯を調整している。希望に合わせて安全に入浴できる環境作りに努めている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	屋内の清潔・環境整備・温度管理により、休息・安眠に繋げられるようにしている。夜間眠れない利用者については、リビングでお茶を飲んでいただき、安眠に繋げている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのファイルを作成し、服用する薬の目的や、副作用・用法・用量等を全職員が理解できるようにしている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしが、楽しみや張り合いのあるものになるよう、今まで続けてきた趣味や楽しみごとが継続できるよう支援している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に行く機会を設け、散歩により屋外に出る機会を持っている。また、月に一度は外食・外出の機会を持ち、地域との関わりを持てるように努めており、利用者も楽しみにしている。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理ができる方は、自分で管理されている。必要に応じて事業所で預かっているが、外出時等の必要時に使えるようにしている。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要時に電話をいつでもかけられるように、各ユニットに電話機を用意しており、家族や友人との連絡が取れるような環境を作っている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間での快適な環境作りとして、照明・室温のこまめな調整を行っている。また、テレビの音量には配慮している。リビングには季節の花を生けることで、季節感を取り入れている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファの配置を工夫することで、利用者の希望に合った空間が作れるように努めている。共有スペースを各自の思うように利用されている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人が落ち着いた時間が過ごせるように、今まで使用してきた家具や写真などを持ち込んでいただき、居心地良く過ごしていただいている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が分かりやすいように居室入り口に記名をする等、安心・自立した生活を送っていただけるようにしている。